

肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害防止への
効果的な手法の確立に関する研究 (八橋班)よりお願い

国立病院機構長崎医療センター
八橋 弘

肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害防止への 効果的な手法の確立に関する研究

研究の目的

肝炎対策基本指針において、肝炎患者等が不当な差別を受けることなく社会において安心して暮らせる環境づくりを目指すとしており、そのための具体的・効果的な手法の確立を目指した研究を行う。

また、肝炎に関する教育の現状と課題を把握し、普及啓発方法等について検討した上で、教材を作成し、その効果を検証する研究を実施する。

研究組織

【研究代表者】

八橋 弘 (国立病院機構長崎医療センター・臨床研究センター)

【研究分担者】

四柳 宏 (東京大学医科学研究所・先端医療研究センター)

米澤 敦子 (東京肝臓友の会)

中島 康之 (全国B型肝炎訴訟大阪弁護団)

梁井 朱美 (全国B型肝炎訴訟九州原告団)

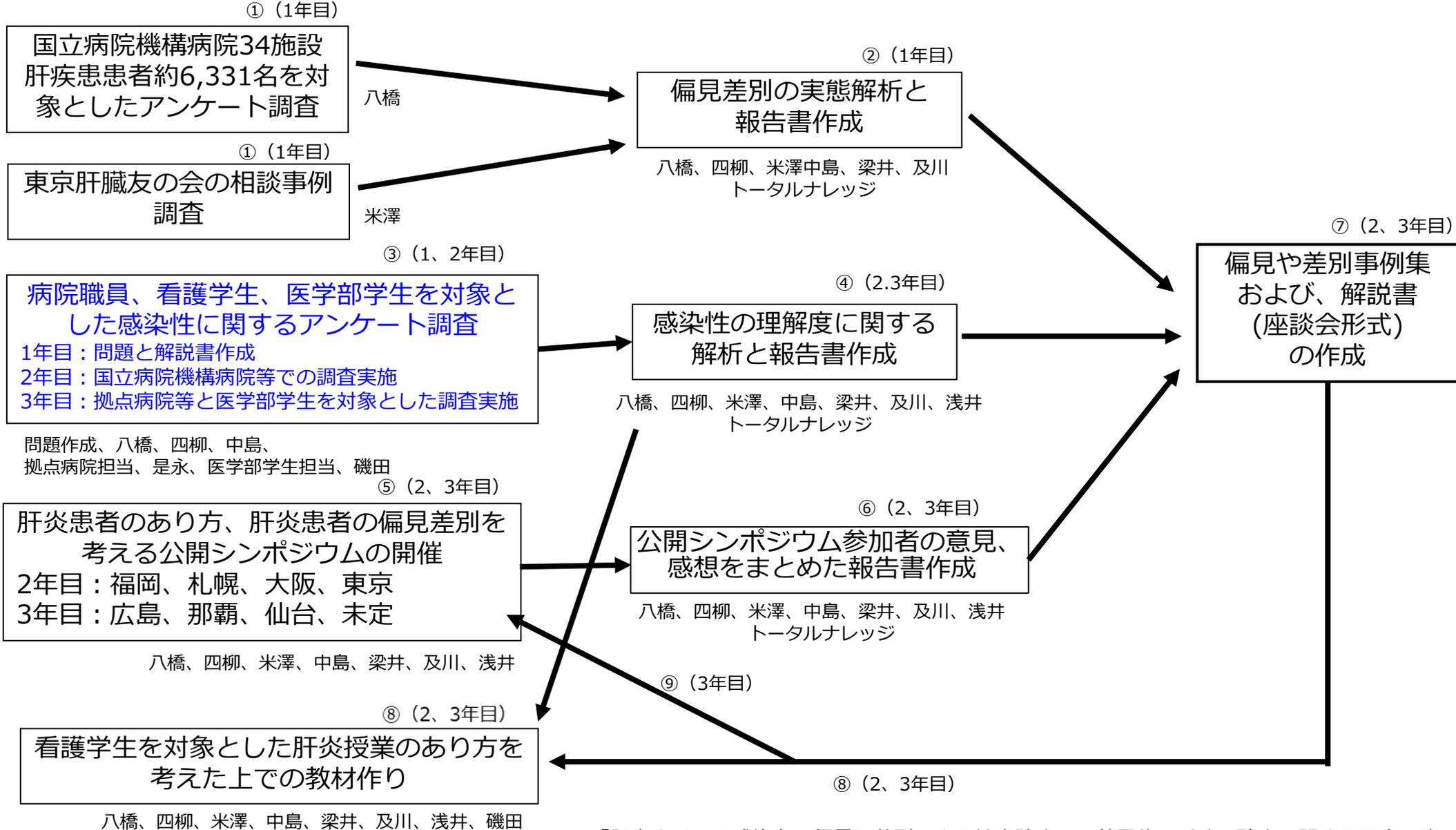
及川 綾子 (薬害肝炎全国原告団)

浅井 文和 (東京大学大学院医学系研究科公共健康医学,元朝日新聞編集委員)

是永 匡紹 (国立国際医療研究センター 国府台病院 肝炎情報センター)

磯田 広史 (佐賀大学医学部附属病院・肝疾患センター)

肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害防止への効果的な手法の確立に関する研究の概要



看護学生及び病院職員を対象としたウイルス肝炎全般、特にウイルス肝炎の感染性についての理解度に関するアンケート調査

11問題、22項目について問題集を作成し、解答後は直ちに正しい答えを理解できるように封印した解答集を問題集と合わせて配布することで、正しい知識、適切な対応を自己学習できるようにした。

2018年8月2日の倫理審査委員会の承認後に協力施設に問題集と解説書を送付した。

当初の予想より多くの参加者に協力いただけることとなり、29の国立病院機構病院と国立国際医療センター病院に所属する病院職員と、16の国立病院機構付属看護学校と看護大学校、看護大学に所属する看護学生、合わせて19428名を対象にアンケート用紙を配布した。

2019年6月14日の時点で14445名（74.3%）から回収でき、今回11148名（57.3%）分のアンケート調査の中間解析をおこなった。

問1 C型肝炎の患者さんと一緒に鍋料理を食べることになりました。食事をする中で、あなたが感染する確率はどれくらいであるか、1つ選んでください。

1. 0%
2. 2%前後
3. 20%前後
4. 80%以上
5. わからない

(1)

解説：

C型肝炎の感染経路は、B型肝炎と同様に血液や体液を介して感染が成立する経血液感染です。

C型肝炎の患者さんとの食事や鍋料理を食べることで、C型肝炎が感染することはありません。

正解は、感染確率0%の選択肢1です。

問2 C型肝炎の患者さんの採血をした針を誤って、自分に刺してしまいました。針刺しによりあなたが感染する確率はどれくらいであるか、1つ選んでください。

1. 0%
2. 2%前後
3. 20%前後
4. 80%以上
5. わからない

(2)

解説：

問3の解説で記述したように、C型肝炎の感染経路は、B型肝炎と同様に血液や体液を介して感染が成立する経血液感染ですので、C型肝炎の患者さんの血液が付着した針を誤って刺すことでC型肝炎に感染する可能性は十分考えられます。

アメリカ疾病管理予防センター（CDC）#の報告によると、針刺し事故に関する感染成立率はHIV感染で0.3%、C型肝炎で1.8%、B型肝炎で1-62%と報告されています。一般に、感染が成立するかどうかは、汚染源となった血液中のウイルスの量と汚染時に被汚染者の体内に入る血液の量によって規定されます。特にB型肝炎の場合は、ウイルス量の幅が大きいことから、成立する確率もそれに応じて異なります。

本設問は、C型肝炎の針刺し事故であることから、その感染確率は1.8%となり、選択肢2が正解となります。

参考文献：CDC MMWR June 29, 2001/Vol. 50/No. RR-11

問3 C型肝炎の患者さんを刺した蚊が、次にあなたを刺しました。
あなたがC型肝炎に感染する確率はどれくらいであるか、1つ選んでください。

1. 0%
2. 2%前後
3. 20%前後
4. 80%以上
5. わからない

(1)

解説：

蚊は人間を刺して吸血します。この血液にウイルスが含まれている場合には、ウイルスは蚊の中に入りますが、蚊の体内でウイルスが増殖することはありません。蚊に刺されたときには皮膚に少量の唾液（蚊の唾液）が入りますが、この唾液にはウイルスは存在しないと考えられます。したがって、蚊に刺されることでC型肝炎に感染することはありません。正解は、感染確率0%の選択肢1です。

なおB型肝炎の場合も同様に、蚊に刺されることで感染することはありません。

参考文献：ウイルス肝炎感染防止ガイドライン（監修：四柳宏）

問4 次の病気は、食事を通じて感染する可能性が、あるか・ないか、をお答えください。

B型肝炎 (1.ある、 2.ない、 3.わからない) (2)

E型肝炎 (1.ある、 2.ない、 3.わからない) (1)

O157感染症 (1.ある、 2.ない、 3.わからない) (1)

HIV感染症 (1.ある、 2.ない、 3.わからない) (2)

解説：

B型肝炎とHIV感染症は、血液や体液を介して感染が成立します。

E型肝炎の感染経路は経口感染で、E型肝炎ウイルスに汚染された水の飲用のほか、ウイルスに汚染された肉（ブタ、イノシシ、シカなど）の加熱不十分での喫食や生食の場合に感染が成立し、急性肝炎を発症することがあります。

O157感染症[#]は、正式には腸管出血性大腸菌感染症とよばれ、ベロ毒素を産生する大腸菌による感染症です。その感染経路は、菌に汚染された生肉や加熱が不十分な肉、菌が付着した飲食物が原因となり、経口感染及び接触感染によって感染します。手洗い等の一般的な予防法を励行するとともに、食品の取扱い時に注意を徹底すること、プールの水を適切な濃度で塩素消毒することが重要です。なおワクチンは開発されていません。

#参考文献：保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）厚生労働省

『肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害防止への効果的な手法の確立に関する研究』班

看護学生及び病院職員を対象としたウイルス肝炎全般、 特にウイルス肝炎の感染性についての理解度に関するアンケート調査 (11問題、22項目の質問について、正解者の分布)

